

公立沖縄北部医療センター住民説明会 質問・回答一覧 (メイン会場)

会場名	質問内容	回答
名護市	北部地域での減圧症治療法の取り扱いについて、特に高気圧酸素療法部が診療科に入っていないが、その可能性や見通しはあるか。	高気圧酸素治療の機器は要望に応じて導入は可能ですが、高気圧療法専門医や、高気圧酸素治療技師が現在はいないため、有資格医師・技師の確保または、資格取得を目指す医師および技師の確保が必要となります。
	北部病院と医師会病院の統合に伴い、現在働く職員の新病院への移行率はどの程度と予測しているか。	希望する医師会病院の職員は北部医療センターに、県立北部病院の職員は希望される方は財団に、または期間を区切って派遣出向という形で来ていただくよう話が進んでおります。毎年新病院にどれぐらいの方が転籍を希望しているのかアンケートを取っていますが、まだ必要となる人数まで回答を頂けておりません。改善できるところをしっかりと提示しながら、多くの職員が新病院に移るよう努めます。
	資料の22ページに職員住宅の整備と院内保育所の整備とある。職員住宅については予定戸数は何戸か、単身者向けか家族向けもあるのか。	職員住宅はプロポーザル方式で事業者を選定予定です。概ね40戸以上の単身者向け住宅を想定しています。正確な戸数や家族向け住戸の有無は事業者の提案を採用しようと考えております。
	保育士不足の現状を踏まえて院内保育所の整備については何か考えがあるのか教えていただきたい。	北部医療センターで認可保育所を設置できる事業者がいなか検討中で、募集方法等についてもヒアリングを進めている状況です。
	現在ある医師会病院と県立北部病院の資産の活用はどのようになるのか？	県及び12市町村間での合意により、原則として北部地区医師会病院の資産は引き継ぐ、県立北部病院の資産は引き継がないとされていますが、北部医療センター整備協議会で認められた場合は譲渡を受けることも可能です。 医師会病院の土地は名護市所有、建物は医師会所有となっております。建物は、合意書に基づき北部医療センターに引き継ぐ予定ですが、使用しない建物は他事業者による活用も含めて方針を模索中です。
	看護師不足、看護師確保に関する取り組みについて一人一人のニーズに合った選択できる福利厚生などについて詳細なデータを集めるなどの取り組みをされているのかどうか	医師会病院及び県立北部病院を含む県立病院全体で、職員の転籍意向アンケートを実施しています。 アンケートの自由意見では雇用条件の改善を求める声が多く、特に中南部から通勤している看護師に対する高速手当などの見直しや住居の問題が指摘されています。 北部医療センターでは看護師確保のため、職員住宅の整備を予定しておりますが、当初は医師住宅として計画されていたものを看護師や医療技術員も利用できるよう変更しました。 また、労働条件については医師会病院の条件を基本としているため、医師会病院と労働条件改善に向けて話し合いを進めております。

公立沖縄北部医療センター住民説明会 質問・回答一覧 (メイン会場)

会場名	質問内容	回答
名護市	付き添い入院される保護者用のベッドについて、県立北部病院では付き添い用ベッドが無く、椅子で座って寝ている場合が多い。南部医療センターでは貸出ベッドが複数あるが、新病院ではどのように対応するのか？	北部医療センターの小児病棟（4階）全ベッドに休憩用ソファベッドを設置予定です。
	ひとり親家庭などの付き添い入院時に子どもの兄弟の面倒を見れない場合にファミリーサポートを使う方が多いが、ファミリーサポートとの連携についてはどのように考えているか？	ファミリーサポートについては、関係市町村と連携しながら様々なサービスを含めて一緒に考えて進めていきたいと考えております。
	コンビニエンスストアは24時間営業か。	コンビニエンスストアはこれから公募により事業者を選定予定ですが、公募の条件としては午前7時から午後9時までの営業は必須とし、それ以降営業するかどうかは事業者の提案内容により、それを含めて事業者を選定していこうと考えております。なお、夜間のコンビニ閉店時のおむつ等の最低限の日用品購入は自動販売機設置で対応する計画としております。
	資料8ページに運営については、県、12市町村、北部地区医師会が共同出資とあるが、出資比率を教えてください。	北部医療財団への出資比率については、おおむね県が50%、12市町村が約40%、北部地区医師会が約10%です。 北部医療財団の基本財産は300万円で、これを県、12市町村、医師会が分担して出資しています。
	赤字が続いた場合の補填（経済的負担）はどこが行うのか。	不足分が発生した場合は、基本的に県が負担することが合意書の中で定められています。
	医師会附属病院（心臓系治療施設）の統合について、施設や診療機能はどうなるのか。	北部地区医師会の循環器棟の建物自体は北部広域市町村圏事務組合の所有となっており、当該建物の所有は北部医療センターへ移転する予定はありませんが、心臓系の診療機能は北部医療センター内に設置されます。 なお、ちゅら海クリニックで行われている人工透析等の機能も、北部医療センター内に統合される予定です。ちゅら海クリニックの建物は北部広域市町村圏事務組合が所有しているため、今後の利用方法は検討中です。
	新しい病院で働く医師にとっての魅力は何か教えてほしい。	北部地域は住民との距離が近く、信頼されていることが働く喜びになっていると考えております。中南部と比べて北部は一か所（北部医療センター）で多様な診療経験ができる点も強みとなっており、若手医師が体を動かして技術を習得できる環境を整えます。また、働きやすい環境づくり、様々な教育プログラムの整備にも努めていきたいと考えております。

公立沖縄北部医療センター住民説明会 質問・回答一覧 (メイン会場)

会場名	質問内容	回答
名護市	看護学生や中高生に向けて、新病院の魅力や働く意義をどのように伝えているか。	将来看護師を目指す子どもたちに憧れを持ってもらうため、小中学生の段階から看護師への理解と憧れを醸成することが重要です。 学校訪問や子ども向けイベントを活用し、看護師の魅力を伝える機会をつくっていこうと考えております。 医師については、北部出身の琉球大学医学部生に来てもらい、合格体験を話してもらう機会を作ったり、県立北部病院や北部地区医師会病院の若手医師と高校でセミナーを行ったり、看護師の職場体験を行ったりしています。 今後もこれらの取組について、組織的に案を作り計画的にやっていきたいと考えております。
	医師不足の背景に子育て世代の医師が学習環境の整った那覇市で働きたがる傾向がある。例えば塾に行く費用を一部負担するという福利厚生があれば安心して北部で働く決め手になると思う。	名護高校附属の中高一貫校「さくら中学」が開設されて3年目を迎え、初めて卒業生を輩出する段階です。今後、卒業生が医療の道に進むという実績が出てきたら、子育て世代の医師も北部に住み、地域医療を行いながら子どもの教育も安心して出来る環境が整うと考えております。 南部の医療機関では看護師を目指すのが希望がかなわなかった子どもたちに対し、塾費用の補助など多様なアイデアを活用しながら確保に努めているとの話を聞いています。今後も様々なアイデアを活用しながら看護師の確保にも務めていきたいと考えております。
	精神科および心療内科に関して女性外来や女性相談室の設置予定はあるか。	女性外来や、女性相談窓口設置については、相談内容によっては医療に繋げる事案、プラス行政との連携を要する事案等様々であることが想定されますので、院内部署の設置方法等検討しつつ、市町村など関係機関との協議も並行して進めていきたいと考えております。